

小金井市長期計画審議会（第13回）次第

日時 令和2年10月16日（金）午後7時00分から
場所 小金井市役所本庁舎第一会議室

【次第】

- 1 新型コロナウイルス感染症の影響について
- 2 計画素案の修正について
- 3 次回以降の開催日について
- 4 その他

【配布資料】

別紙配布資料一覧のとおり

小金井市長期計画審議会

配付資料一覧

	No.	資料名	備考	
第1回 (6月28日)	1	小金井市長期計画審議会の運営等について(案)		
	2	小金井市市民参加条例、同施行規則(抜粋)		
	3	小金井市附属機関等の会議に関する傍聴要領		
	4	意見・提案シート		
	5	基本構想・基本計画について		
	6	小金井市長期総合計画策定方針		
	7	小金井市長期総合計画討議要綱		
	8	小金井市長期総合計画策定に当たっての市民意見まとめ (令和元年6月28日現在)		
	9	長期計画審議会・起草委員会全体スケジュール(案)		
	10	審議会・起草委員会の役割(案)		
	11	市報(抜粋)		
	冊子		第4次基本構想・後期基本計画	
	冊子		第4次基本構想・後期基本計画(概要版)	
	冊子		小金井市人口ビジョン 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略(概要版)	
	冊子		こがねいデータブック	
	冊子		平成30年度小金井市市民意向調査報告書	
冊子		わたしの便利帳		
第2回 (7月12日)	12	新たな計画策定に向けた意見書(写)		
	13	第5次小金井市基本構想・前期基本計画の構成と検討の進め方(案)		
	14	第5次小金井市基本構想(素案)		
	15	将来像について		
	16	まちづくりの基本姿勢について		
	17	意見シート(委員用)		
第3回 (8月7日)	9-2	長期計画審議会・起草委員会全体スケジュール(案)		
	13-2	第5次小金井市基本構想・前期基本計画の構成と検討の進め方(案)		
	8-2	小金井市長期総合計画策定に当たっての市民意見まとめ (令和元年8月7日現在)		
	18	起草委員会委員(案)		
	19	小金井市長期計画起草委員会設置要綱(案)		
	20	第5次小金井市基本構想「6政策の取組方針」のイメージ		
	21	第5次基本構想政策シート(環境・都市基盤、福祉・健康)		
	22	第4次基本構想・基本計画取組状況の振り返り (環境と都市基盤、福祉と健康)		
	23	SDGsについて		
	冊子		小金井市子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書(概要版)	
第4回 (8月21日)	8-3	小金井市長期総合計画策定に当たっての市民意見まとめ (令和元年8月21日現在)		
	24	第3回小金井市長期計画審議会メモ(委員提出資料)		
	25	基本構想・基本計画の構造について		
	21-2	第5次基本構想政策シート (地域・経済、子ども・教育、文化・生涯学習、行政経営)		
	22-2	第4次基本構想・基本計画取組状況の振り返り (地域と経済、文化と教育、計画の推進)		
	26	市民懇談会について		
第5回 (10月11日)	27	意見・提案シート	8月21日收受	
	28	第5次小金井市基本構想(素案)(令和元年10月11日現在)		
	29	将来像について		
	30	まちづくりの基本姿勢について		
	31	市民懇談会について		
第6回 (10月25日)	32	第5次小金井市基本構想(素案)(令和元年10月25日現在)		
	33	将来像について		
	34	市民懇談会について		
	35	将来像の「つなごう絆」について(委員提出資料)		

	No.	資 料 名	備 考
第7回 (11月16日・17日)	36	第5次小金井市基本構想(素案)	市民懇談会
第8回 (12月20日)	37	市民懇談会開催報告書	
	38	第5次小金井市前期基本計画(素案)(令和元年12月20日現在)	
	9-3	長期計画審議会・起草委員会全体スケジュール(案)	
第9回 (1月24日)	37-2	市民懇談会開催報告書	
	39	第5次小金井市基本構想(素案)修正箇所抜粋	
	40	第5次小金井市前期基本計画(素案)施策頁抜粋(令和2年1月24日現在)	
	41	第3回起草委員会とりまとめ(目指す姿・指標)	
	42	(仮称)市民懇談会のネーミングについて	
第10回 (4月20日)	43	小金井市しあわせプラン(素案)(令和2年4月1日現在)	事前配布
第11回 (5月13日)	44	小金井市しあわせプラン(素案)(令和2年5月1日現在)	事前配布
	45	前回審議会からの修正内容	事前配布
	46	総合戦略の概要	事前配布
	47	パブリックコメントについて	事前配布
	9-4	長期計画審議会・起草委員会全体スケジュール	事前配布
第12回 (7月17日)	48	第5次小金井市基本構想・前期基本計画(案)に対する意見及び検討結果について(案)	
第13回 (10月16日)	49	コロナ禍で「感じたこと」「考えたこと」「反省したこと」「気付いたこと」	事前配布
	50	新型コロナウイルス感染症の影響による変更箇所に関する御意見	事前配布
	51	小金井市長期計画審議会(第12回)「新型コロナウイルス感染症への対応について」審議を受けて(委員提出資料)	事前配布
	52	現時点における今後のスケジュールについて	事前配布

コロナ禍で「感じたこと」「考えたこと」「反省したこと」「気付いたこと」

ICT・オンライン化など

- 対面の会議、イベントを開催することができなくなり、Zoomを利用した会議や、SNSを活用した地域事業を実施したが、開催することもできず、活動が完全に停止した団体もある。インターネットの環境が整っているか、Zoom等を利用することができるかどうか、ということが、団体活動の継続に直結してしまっている。
- 生涯学習、学校教育ともに、コロナ禍のために、学びをストップするのではなく、オンラインでの学習などを活用して、「誰もが」学習を実施できるような環境を整備する必要性を痛感した。
- 市内の施設や学校どこでも Wi-Fi が使えるようにしてほしい。会議や講座、会合などもオンライン化していく必要がある。
- 各種団体のさまざまな会議があるが、オンラインでも十分な会議がほとんどであった。
- 一方、仕事柄、お客さんとの打合せはオンラインだとニュアンスをつかみにくく、できれば対面としたい。
- 弊社のスタッフは皆、徒歩、自転車、原付バイクでの通勤圏なので、特にリモートワークにしなくても安全だったことで、通常通りの業務ができて助かった。一方で、昨今は電車が空いていることから、通勤しなくて済む業種が多くあると想像すると、働き方を見直すいい機会だと思う。
- コロナ対応のため、オンライン会議や集まりを行うこととなったが、今までの集まってやる方法の会議運営では難しいことも多く、オンライン上での運営の仕方を学んでいくことが必要だと思った。
- コロナによって、ICT技術によるテレワーク等にシフトした企業が出てきた。一人世帯の人と複数世帯の人でも異なるが、在宅にせざるを得ないという環境の変化がもたらす人への影響は大きいと思う。今後自死や虐待、DV等にどのような影響を与えるのか、どう対応していくのかが不安である。
- 感染症の拡大は恐ろしいことではあるが、副産物として良かったこともあったと思う。テレワークの推進など、今まで停滞していたものが泥縄式ではあるが一気に加速した。この流れが停滞することなく、さらに続いてほしいと思う。

- 20年ほど前に話題になったデジタルディバイド問題のようなことが再び注目されるかもしれない。在宅勤務者が一気に増えたことにより、通信速度で苦労した人もいると思う（集合住宅だとISPは自由に選べないことが多く、かつトラフィックの輻輳でさらに低速に…、とはいえ一朝一夕には対応できない等）
また、子供たちがオンライン授業を受けるにしても家庭に1人1台パソコンがあるとは限らず、それぞれの環境は大きく異なり、導入には色々と障壁がありそうに思った。

日常生活・仕事・価値観などの変化

- 通常行ってきた事業活動（会員による就業活動、定時総会、理事会、地域班集会、各種委員会、地域班地区委員会議、各職班会議、各種研修会等々）が従来通りできなくなり、3密を避けるための場所の確保・人員制限・運営方法・感染リスク回避対策等、対応に苦慮した。
- シルバー人材センターは公共及び民間のお客様からの依頼によって、有償の仕事を請け負っておりますが、公共施設の休館や閉鎖及び利用制限、また、民間・個人における感染リスク回避のための依頼控え等により、就業率が低下し、昨年同期に比較して、80%まで落ち込み、会員へ支払う配分金の減少を余儀なくされた。
- シルバー人材センターが無償で行っている、社会奉仕ボランティア活動が、3密回避のため、中止せざるを得なくなったのは、痛恨の極み。
ボランティア活動の一つ「歌でふれあい隊」（会員 15～20 名）による、老人介護保健施設訪問、利用者との合唱ボランティアを、過去8年来継続して実施してきたが休止状態となっているのは、誠に残念。「歌でふれあい隊」の母体になっている、シルバーの自主サークル「ドレミの会」も、例会の拠点にしている、カラオケボックスが3密回避のため使用できず、会員の数少ない楽しみを奪われており、寂しい限りである。
- コロナ禍まで普通だと思っていた安心安全に暮らせる日常（家族が健康でいること、自由に出かけたり友人と会えたりすることなど）が、ありがたく幸せだったと気付いた。
- 自粛期間中、ファーマーズマーケットが安心安全ということで、来客が増え地場野菜の注目度が上がった。災害時に農地の多面的機能を活用するためにも、市内の農地を保全し、さらに農業を活性化することが大切だと思った。
- リモートワークの普及で、ベッドタウンとしてではなく、市内で過ごす時間が増えると思うので、市内で充実して過ごせる魅力的な街にしていくという視点が必要だと思う。小金井の魅力を活かした飲食店やお店。散策できる湧水や緑道。だれでも利用できる農

業公園などがあればフレッシュ効果がある。都心に出やすく、自然が豊かな小金井は伸びしろのある街だと思う。

○コロナで逆に忙しくなった。各団体の会議や懇親会に参加していたら回らなかったと思う。自粛で助かった。

○人が集まることができなくなり、今まで出来たことが、出来なくなったことで、当たり前のように出来ていたことに対する価値の重さを改めて気づかされた。

○コロナ禍はウイルスが人間に突き付けた大きな課題である。今後、社会・人間はどうあるべきかを問うており、今後の対応如何により、社会、人間の行動は大きく変容する。

○コロナ禍は産業・企業・人を好むと好まざるにかかわらず、取捨選択してしまう。

○感染症拡大するに伴い、今まで当たり前だったものが当たり前でなくなっていく有様、変化の仕方が劇的だった。冠婚葬祭の在り方の変容、各種イベントの中止、休業など、その上で今後一気に廃れる業種・業態が出現し、その先がどうなっていくのかははっきりとわからないので、状況を注視していきたいと思った。(ワクチンの開発が完了する等すれば、元に戻ることもありえるのだろうが、現時点では見通しが立っているとも言えないように思う)

○日本のみならず世界が変わっていく様子は、今自分はまさにパラダイムシフト真っ只中にいるのだろうな、と実感した。(欧米でもマスク着用の浸透など)

○今後の重要かつ将来性のある分野としては、IT(通信)、医療・医薬があげられる。

○各々の衛生意識が向上し、他の感染症(インフルエンザなど)の患者数が減ったことも良かった点と言える。これも傾向も続いていったらよいと思う。

○収束までは長期戦になると思うので、うまく対応していきたい。

人と人との関わり、つながり・居場所

○コロナ禍だからこそ、地域における「人と人のつながり」の有り様のさまざまな形態を考えていくべきだと思う。

○コロナ禍の自粛生活によって、高齢者の引きこもり(特に単身世帯)や子どもの居場所

の喪失が懸念される。

- 会議や親睦会で人同士が直接会うことの大切さ。そして飲食を共にすることで、連帯感や親しみが増す。食育でも「共食」を進めているが、コロナ禍でどうするかを考えていきたい。
- 高齢者にとっては、コロナ感染も不安だが、それよりも外出が減り、体力、筋力が弱ることや、人と会えず話さないことで、精神的に孤独になることのほうがより深刻だと思う。市の対策としてフォローがあったほうが良い。
- 自粛により、家族との時間が増えたことは良かった。
- ほっとできるいつもの日常がある大切さ。感染予防はもちろん大切だが、人とのつながりや触れ合いがあった日常が、予防によって、奪われてしまうのは違う弊害を生むことにもつながる。
- 支え合える地域の大切さ。誰もが感染し得る状況なので、感染した人を責める社会ではなく、もし罹っても、支え合えるあたたかさが大事。
- 今回のコロナウィルスだけでなく、震災時のときにも通ずることだと思うが、非常時が起きた時にいかに、地域や周りの人たちと分け合えるか、思い合えるかがとても大切だと考えた。そのためには、日頃からのつながりがとても大切だと感じた。
- 学校が一斉休校になったあと、子どもたちの行き場が失われた。その後、体力が落ちたり、怪我をしやすくなったりしているのではないかと懸念している。今後同様の事態に遭遇したときに、三密を避けつつ、子どもたちが体を動かせる場所があればよいと思う。
- コロナ禍の逆境だからこそ、困った人を助けるなど、心の余裕を持ち、人と接したいと思う。
- 人間の特性(例えば、他人と交流する、移動する)を制限するのが、コロナ禍だと思う。
- 高齢者施設や病院で面会禁止となり、お見舞いに行けなかったり、家族の看取りができなくなったり、高齢者や体調の悪い方との関わりの機会が断たれてしまっている。一方で、高齢者施設にご入居の方にとっては、施設の許可が出ないので買物等に出かけられず、外部と隔離されてしまっている。ワクチン等ができるまでは、高齢者施設・

病院の対応は変わらないと思われ、この状況が長期化することによる影響を懸念している。

情報・報道

- 適切で正確な情報が迅速に伝わるのが重要だと思う。テレビなどの情報が氾濫し、ありすぎても不安になる。市内独自の情報網が必要。特に医療機関などの情報。
- 自粛期間中の時間をもっと有効に使えばよかった。不安で家にこもっていたが、適切な情報があれば、計画的にできることがあったと思う。
- テレビなどの報道が情報操作されている感じが否めない。
- 感染者やクラスター化した感染者やそれを出した、店舗、施設に対する誹謗や中傷を報道で見ると、残念な気持ちになる一方で、感染した人たちに対して自業自得、自己責任という思いが頭をよぎることもあり、自身の気持ちの整理がつかない時がある。

安全・安心

- 未知のウィルスのため恐怖心。
- もし感染して、周囲に拡げてしまったらという不安感。
- 恐怖心や不安感を和らげてくれる人、職場がある安心感。
- 自身が感染源となってしまうかという不安(うつされたくない、うつしたくない)から、後ろ向きな考え、言動、行動になりがちだった。

行政

- 小金井市のコロナ対策は、行政のご尽力で、うまく行っていると思う。
- ゴミの収集・処理などの業務において現場の感染防止が適正に行われていたか気になる。マスクなどをそのまま捨てる世帯も多く、感染リスクがあることや、感染によって事業所・事務所が閉鎖してしまうと、収集事業が停止してしまうリスクもあるのでは。

- 保育園の受け入れ体制が自治体によって異なっていたように思うが、小金井市の対応がどのようなものであったのか、それが適切であったのか、検証が必要であるように思う(保護者の観点と受け入れる側の観点とで評価の違うところもあると思うので、そこも含めて)。
- 市(含市議会)の業務全体がコロナ禍を機にどの程度デジタル化されたのか、知りたい(印鑑の廃止や電子決裁システムの導入、会議のオンライン化など)。
- 小金井市としての新型コロナウイルスへの対応を振り返る報告書のようなものが出されるのであればぜひ読んでみたい。またこの間、市民からは市にどのような質問や要求が寄せられたのか知りたい。
- 感染症対策として、そもそも国や都が行うことと市が行うことの間に関係や分業などの実際についてよくわかっていないので、教えて頂く機会があるとありがたい。
- 感染症対策で国や各自治体の果たす役割は極めて大きい。その対応如何により、感染症の拡大・収束を左右すると思う。

新型コロナウイルス感染症の影響による変更箇所に関する御意見

頁	箇所	御意見(概要)	属性
	全般	この間の経過(感染拡大発生、半年延長したことのほか、変更の方針などを、「はじめに」等、委員長からの言葉を基本構想の前に載せてはどうか。	市
	全般	新型コロナウイルスの影響による変更は、5年後に後期基本計画策定時に見直しができる機会を設けるため、基本構想部分は、社会潮流等は除き大きく変更せず、包括的な表現とし、基本計画で記載すべきと考える。	市
	全般	今後については専門家ですら予測できないことで、長期継続、短期終息のどちらも間違いとなる可能性がある。今後5年・10年のプランではあるが、割り切って、現状での対応策を記述することにしてはどうか。	委員
	全般	感染症対策の施策の充実を図っても良いのではないかと。市の対策も含めて言及すると良いと思う。小金井市独自の給付金、PCR検査専用搬送車の導入、医師会との連携、ギガスクールなど。	委員
基本構想			
6	1基本構想の目的と策定意義・役割	2パラグラフ目「地方自治体を取り巻く環境」の前などに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大について追加してはどうか。	市
7	2基本構想の位置付け(1)計画期間	前期基本計画の計画期間の表現(市の検討項目)	市
9	3(1)計画分野ごとの取組状況「福祉と健康」	感染症への対応に該当する文言は含まれるか。(「健康の維持・増進」がそれにあたるか?)	委員
9	3(1)計画分野ごとの取組状況「福祉と健康」	「新型コロナウイルス等感染しない、感染させない、健康と命を守るまち。」の文言を追加してはどうか。	委員
11	3(2)社会潮流「情報化社会の進展」	感染経路の追跡などとの関連でプライバシーへの配慮についても一言入れるのはどうか。	委員
12	3(2)社会潮流「安全・安心への意識の高まり」	大規模災害の1つの事例として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大について記載してはどうか。	市
12	3(2)社会潮流「安全・安心への意識の高まり」	感染症について触れると、全体的に自然な流れだと思う。	委員
12	3(2)社会潮流「安全と安心への意識の高まり」	「新型コロナウイルス等感染しない、感染させない、お互いの健康と命を守る意識高揚と定着を図る。」の文言を追加してはどうか。	委員
13	3(3)小金井市の現状④公共施設	「……計画的な施設更新」の後に括弧書きで(コロナ対策が可能な、ソーシャルディスタンスを考慮したゆとりある施設計画)を挿入してはどうか。	委員
18	6政策の取組方針「環境と都市基盤」	「●豊かなみどりと水の保全と活用」に「……景観を豊かに保ち、いかし」のあとへ、「毒性のない清潔な環境を整えます。」を挿入してはどうか。	委員
19	6政策の取組方針「地域と経済」	感染症の拡大においては共助は難しく、公助の担う部分が多い。公助の役割を強調する。迅速な情報伝達や、医療機関との連携で命を守ることを最優先にし、感染症対策をしていくことが必要と思う。	委員
22	6政策の取組方針「福祉と健康」	「●健康な暮らしの支援と実現」に「病気の予防」とあるがこの文言だけで十分か?「感染症への対応も含めて」などと追加するか。	委員

頁	箇所	御意見(概要)	属性
22	6政策の取組方針「福祉と健康」	タイトル「誰もがいきいきと」の前に「お互いに健康と命を守り合い、」を挿入してはどうか。	委員
22	6政策の取組方針「福祉と健康」	「●健康な暮らしの支援と実現」末尾「…生活環境を実現します。」のあとへ「新型コロナウイルス等感染しない、感染させない自衛・防止策を、ひとりひとりが心がけ、お互いの健康と命を守り合う、まちづくりを行います。」を追加してはどうか。	委員
23	6政策の取組方針「行政運営」	「●持続可能な行財政運営」の「ICTの利活用」の部分、「電子決済、オンラインでの会議など」と踏み込むか。	委員
基本計画			
48	施策8防災体制の整備	「災害」や「新型インフルエンザ等」に新型コロナウイルス感染症が含まれている表現へ変更すべきと考える。また、備蓄や避難所運営における感染症への対応を明記してはどうか。	市
48	施策8防災体制の整備	防災に加え、感染症対策を盛り込むと良いと思います。防疫教育、備蓄の見直し(マスク・消毒液等)、関係機関(医療機関)との防疫協定、想定シミュレーション等。	委員
48	施策8防災体制の整備	自助、共助、公助のバランスで、感染症の拡大においては共助は難しく、公助の担う部分が多い。公助の役割を強調する。	委員
48	施策8防災体制の整備(施策の方向性)	「新型インフルエンザ等対策行動計画の策定と～」と感染症に係る記述があるので、当該計画が「新型コロナウイルス感染症」も含んでいるのであれば、その旨を追加するのはどうか。もしくは、前段が「武力攻撃災害への取組として～」と、感染症とは関係のない脅威についての記述であるため、昨今の感染症への意識の高まりを鑑みて、後段の「新型インフルエンザ等対策行動～」以下の部分を新たな5個目の項目として独立させて、新型コロナウイルス感染症への対策をしている(または、対策を検討している)旨を明示してはどうか。	委員
49	施策8防災体制の整備(施策の方向性)	新型コロナ感染症対策で、施設の消毒や市民の安心安全につながる施策を追記してはどうか。	委員
52	施策10産業・観光の振興	新たな生活様式を踏まえた課題等について、記載すべきと考える。	市
59	施策13子育て家庭の支援(施策の方向性)	テレワークが進む中、変化する生活様式に対応した保育や育成のサービスが求められていくのではないかと思う。(テレワークにより仕事と育児の両立に不安を持っている人が多いという話を聞いている。)	委員
62	施策15学校教育の充実	現状2個目に「ICT機器の効果的活用に取り組むほか」とあるので、この記述を活かして、ICT機器を活用することで、感染症拡大といった状況下でもおいても、教育に活用できる旨を書いてはどうか。	委員
62	施策15学校教育の充実	ICT教育の普及やGIGAスクール構想について言及してはどうか。	委員
62	施策15学校教育の充実	新型コロナウイルス感染症については、今後どうなるかわからない。今後他の感染症が流行する可能性もある為、『感染症拡大を防ぐために公衆衛生の知識向上』を教育の項目に明記するのはどうか？	委員
64	施策16学校環境の整備	「課題」「施策の方向性②」で、プログラミング学習だけではなく、GIGAスクール構想につながるような記載に変更すべきと考える。「指標」の「ICT機器の整備率」は、前倒しで達成しているため、活用率に変更したい。	市
64	施策16学校環境の整備	一人一台のPCを配置し、休校期間中の遠隔授業にも対応可能な態勢を整えるなど、踏み込んだ表現は可能か。	委員
64	施策16学校環境の整備	有事における学びの確保について方向性に入れると良いと思う。災害や感染症等が起きたときでも、様々な方法で子どもたちに学びが提供できるように、その体制づくりが必要だと思う。	委員

頁	箇所	御意見(概要)	属性
68	施策18国際交流・都市間交流の推進	「～交流の機会を作っていきます」とあるが、現状では従来のような対面しての交流は難しいと思われるので、新しい交流の方法(インターネットを活用するなど)を模索していくような記載にしてもよいのではないかと考える。(すでに非対面での交流も進んでいるようでしたら不要)	委員
71	施策19人権・平和・男女共同参画の尊重(指標)	イベントが中止になっている現状では、参加率で測定する項目は削除しても良いのではないかと考える。	委員
72	施策20生涯学習の振興	「課題」「施策の方向性②」において、災害時でも「学びを止めない」ために、情報発信環境の整備について明記したいと考える。	市
73	施策20生涯学習の振興(施策の方向性①)	生涯学習活動の拠点の整備として、図書館での電子書籍化の推進や学習施設のネット環境の整備を含めてどうか。	委員
73	施策20生涯学習の振興(指標)	学習施設におけるオンライン講座の実施数、参加者(視聴者)数を含めてみてはどうか。	委員
76	施策22福祉のまちづくりの推進(施策の方向性)	災害や感染症流行など有事の支援体制の確保について組み込むべきだと思う。方向性②に災害時の支援体制について明記されているが、経済的支援を必要とする人も増加することから、誰もが必要な保障を受けられるように⑤、⑥、⑦の内容も包括した、また、非常時でも少しでも安心できるように、日頃からの地域のつながりを推進するような、体制づくりについて検討が必要ではないかと思う。	委員
77	施策22福祉のまちづくりの推進(施策の方向性)	テレワークが進む中で、ベッタウンという考えも変わり、自宅や近辺での仕事が増え、家族福祉(介護、育児)という視点も入れることもひとつでは。虐待やDVなどの課題が浮き彫りになっている。新たな生活様式における家族の暮らし方にも着目していく必要があると思う。	委員
80	施策24高齢者が暮らし続ける仕組みの充実	「施策の方向性①」において、オンラインの活用の検討を明記したいと考える。	市
84	施策26健康の維持・増進	感染症対策についての記載をいずこかに入れるべきではないかと考える。	市
84	施策26健康の維持・増進	感染症への対応について記述するとしたらこの部分か。そもそも市としてできることは何か。	委員
84	施策26健康の維持・増進	「保健所に電話が繋がらない」「検査がなかなか受けられない」「市内でクラスターが発生した」など身近で危機感を持った方が多いと思うので、感染症に係る何らかの記載があったらよいのではないかと考える。	委員
84	施策26健康の維持・増進(施策の方向性)	感染症に対する医療体制の確保、災害や感染症等の有事でも、安心して出産できる体制の確保、について明記したほうが良いと思う。	委員
85	施策26健康の維持・増進(施策の方向性④)	「・・・更なる受診につなげるため、」のあとへ、「また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、」を挿入するのはどうか。	委員
86	施策27市民参加・協働の推進	市民参加の手法としてウェブ会議などの活用を含めるか。	委員
88	施策28積極的な情報発信	官民共用可能な基礎データ(オープンデータ)のシステム化について更なる記載が必要と考える。	市
90	施策29計画的な行財政運営	「課題」「施策の方向性⑤」におけるICTの表現について、行政のDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進が必要と考える。事業のオンライン化についても総括的に記載したい。	市
90	施策29計画的な行財政運営(課題)	「本市の職員の多様な働き方の一環としての在宅勤務実施にむけ環境整備が必要」を挿入してはどうか。	委員

頁	箇所	御意見(概要)	属性
91	施策29計画的な行財政運営(施策の方向性⑤)	感染症対応としてのペーパーレス、オンライン化について記述するか。	委員
91	施策29計画的な行財政運営(施策の方向性⑤)	ICTの更なる利活用により、「非対面でも可能なサービス」を増やし、感染症拡大下にも対応できるようにする、といった方向性を記載してはどうか。	委員
91	施策29計画的な行財政運営(施策の方向性⑤)	情報インフラの積極活用が考えられる。技術イノベーションをいかに制御して使うかと、それに馴染みが持てない人々の感情的反発を引き起こさないための慣れの訓練が必要。「制御」の対象はセキュリティーの担保であり、訓練のポイントは市民協働である。具体的には青少年からの若者を教師とする高齢者のコンピューターリテラシー教育の取組の記載をしてはどうか。	委員

小金井長期計画審議会（第 12 回）

「新型コロナウイルス感染症への対応について」審議を受けて

渡邊嘉二郎（2020 年 7 月 18 日）

1. はじめに

2020 年 7 月 17 日に開催された第 12 回小金井長期計画審議会における第一次第において表記「新型コロナウイルス感染症への対応について」が審議された。正確な内容は発言録に譲るとして、出席委員全員の発言から次の事柄が決定された。

- (1) 新型コロナウイルス感染症のことを計画に入れる。
- (2) 計画に入れるべき内容については、新型コロナウイルスの影響との関りで基本構想・基本計画の記述について丁寧に議論を重ねる。

(1) については、審議会として、これだけ大きな事象となっている新型コロナウイルス感染症について避けて通れない。避けたとしたら市民感覚から乖離する等の意見であった。(2) については「小金井市の将来像」はあるべき姿として変わることはない。また基本構想・基本計画においてのその方向性や内容は変わらないが、新型コロナウイルスという世界を揺るがす事態をうけて、感染症終息後の社会を可能なかぎり見据えて、それが反映できる表現の検討をするということであったと思う。

2. 議論の枠組みについて

新型コロナウイルス感染症の影響については、①現在進行形の状況(facing corona)での対応、②感染症の収束状態での対応(with corona：コロナウイルス存在を前提とした新しい生活様式における対応)および③感染症の終息状態 (post corona) での対応の三段階で考えられる。この 1 年あるいは 2 年後までにはワクチンが開発され多くの人が受けれるようになり③の終息状態に落ち着くことが予測される。そのとき「新型コロナウイルス感染症」を経験した我々はその事態を評価するかが議論の枠組みを左右する。コロナ感染症の真ただ中にある現在、心理的に我々はその大きな影響の埒外にいることはできない。この心理的影響の大きさから、我々は終息状態では、パラダイムシフトが起こり、価値観が変わり得ると感じることは自然であろう。また経済的にはリーマンショックを超える大打撃をうけその回復も長期にわたるであろうという客観的に理解できることもある。確かにコロナ対策予算では、東京都が今まで蓄えた貯金を第一波で使い果たし、国では赤字国債で賄わざるを得ない。このように考えるとき、③の終息状態でも大きな社会的影響が継続すると推測される。

③の終息状態以降、パラダイムシフトが起こるか否かについての評価・判断は識者の中でも意見が分かれるようである。すなわち、経済的ダメージの影響を引きずりつつも、ビフォー&アフターコロナで社会は大きくは変わらないという予測、すなわち「喉元過ぎれば熱さ忘れる」という推測である。もう一つは、歴史上、パンダミックがしばしば世の中

を変えたことがあり、パラダイムシフトは起こるという予想である。パラダイムシフトが起こるとすればそのような社会的価値観が変化するかである。いろいろ書物を読むと、「京都の静けさが戻り元来の京都に戻った」、「北海道で空気が澄み切っていた」という文学的表現にあるように地球環境の傷がこのコロナ禍を通して、回復したという話もある。なにをもって行き過ぎというかその判断は困難であるが、行き過ぎたグローバル化やあるいは行き過ぎた国際金融資本主義に対して、このコロナ禍は立ち止まって考えてみたらという機会を与えたように思う。さらに高度情報化とインフラ（情報通信網）の恩恵を改めて認識した市民も少なくない。

「パラダイムシフトが起こるか否か」の客観的判断は困難である。あえて判断するとすれば、そこにはその人の思想的あるいは実利上の基準あるいは主観が前提となるだろう。行政としてあるいは長期計画審議会としては、「パラダイムシフトが起こるか否か」の判断を前提とした議論は避けたい。基本的には「小金井の将来像」に包含される理念を実現する目的のもとで「転んでもただでは起きない」という精神で、この新型コロナウイルス禍を通して「感じたこと」、「考えたこと」、「反省したこと」、「気づいたこと」を①現在進行形の状況(facing corona)のなかで、②感染症の収束状態 (with corona)および③の終息状態に落ち着く (post corona) 状態を想定しつつ、基本計画等に反映させることではないだろうか。このこと自体が、小金井をよりましたにするパラダイムシフトの切っ掛けになる。

3. イノベーションについて

イノベーションは経済活動の中で生産手段や資源、労働力などをそれまでとは異なる仕方
で新結合することとヨーゼフ・シュンペーターは定義している（ウィキペディア）。この出発点は技術革新である。技術革新を基にするイノベーションについては、その結果を享受しつつ、それを批判する人もいる。「イノベーション万能」も「その単純な批判」も過ちである。「技術イノベーションの成果は制御しながらうまく使う」ことが正解ではあるまいか、と私は思う。

フォン・ノイマンの、僅か1ページ半のプログラム記憶方式のコンピュータの論文は、そのシンプルさと斬新さにより今日の高度情報化社会の礎をつくった。この社会は急激な革命的变化でつくられたものではなく、コンピュータの高度化にともないジワジワと社会に影響を及ぼし現在の高度情報化社会を構築した。若干の先見の目を持っていて、そして通販文化を享受していたアメリカにおいてアマゾンがこの情報インフラを活用して世界を席卷し、情報を商品と見立てたグーグル、フェイスブックがそれに続き、その基盤をアップルが作り世界標準とした。いまスマホを忘れて外出すると落ち着けない、昔のダイヤル式黒電話の時代を思い返せば隔世の感がある。上述したが、このコロナ禍の中で、高度情報化情報通信網（情報インフラ）の恩恵を自覚した人が多い。情報インフラをうまく使えば面白いことができることを知ったのである。

「転んでもただでは起きない」戦略の一つとして、情報インフラの積極活用が考えられる。このとき、この技術イノベーションをいかに制御して使うかと、それに馴染みが持てない人々の感情的反発を引き起こさせないための慣れの訓練が必要である。「制御」の対象はセキュリティーの担保であり、訓練のポイントは市民協働である。具体的には青少年からの若者を教師とする高齢者のコンピュータリテラシー教育の取り組みである。

資料1に情報インフラがらみのリテラシー教育の一つの事例、資料2に行政のデジタル化の戦略と戦術を事例として示す。

4. むすび

①現在進行形の状況(facing corona)、②感染症の収束状態 (with corona)および③の終息状態に落ち着く (post corona) の段階において、私の場合は専門上、情報インフラ・デジタル化の視点に立った。コロナ禍から委員各位は「感じたこと」、「考えたこと」、「反省したこと」、「気づいたこと」があると思う。委員の様々な視点から、いままで作り上げてきた「小金井市の将来像」、「まちづくりの基本姿勢」、「政策の基本方針」をざっと見返し「第2部施策」において反映できるものは反映してみるということでしょうか。

86 子供が先生になって高齢者を教えては？

TRIZ #13 逆発想原理で「教えるべきものが教わる」ということを考えます。高齢者は子供より先に生まれており「先生」です。その「先生」に子供が教えることで何か価値を生まないでしょうか？ 高齢者の経験は豊富で知識の量と質は子供を凌駕します。全てにおいてそうでしょうか？ 遊びの中心をコンピュータゲームにおいて育った子供はアナログの世界で育ち仕事してきた高齢者より、コンピュータへの恐怖感はありません。ゲームでコンピュータの外枠を学んでおり子供は高齢者よりこの分野では経験者なのです。子供がコンピュータのイロハを学び、高齢者に教えることは可能です。子供は初めコンピュータの使い方の手続きしか教えないでしょう。高齢者の質の高い知は、それでは満足できず「何故？」と質問します。子供はすぐには答えられず、次の講義まで誰かに教わり、その「何故？」に答える努力をします。それが不完全でも孫のような子供に高齢者は問い詰めることはしません。その範囲で理解します。高齢者は子供に「教えてくれてありがとう」と言います。これが子供の成長にどれだけ役立つことでしょうか。これはTRIZ #23 フィードバック効果です。ここに大きな価値が創生されます。

(資料1)

ものづくりの発想法

渡邊嘉二郎 城井信正

法政大学出版局



子供から スマフォ手ほどき 受け嬉し
教えるが 教えるものに 教え込む
老いたれば 小に従えと 古人いう

- 1 デジタルコンピュータの未曾有の発展はこの30年間くらいの間のことです。生まれながらにしてデジタルの世界にいる子供と比較して、この恩恵を若い時代受けなかった高齢者はハンデがあります。その意味で、この分野は子供のほうが高齢者より経験が豊富です。
- 2 その子供が高齢者を教えることで、教わることの本当の意義を子供は知ることができます。このことは素敵なことですね。

(資料2)

新型コロナへの対応メモ

2020年6月25日 (7月18日修正) (渡邊嘉二郎)

(1) 短期対応 (2020年度) ①現在進行形の状況での対応

現在取り組んでいる方策を継続する。

(2) 中期対応 (前期基本計画) ②感染症の収束状態での対応

【戦略】遠隔化対応 (試行期間)

- 経済低成長時代対応 (コロナ対策費用の返済期間) 経費をかけず質を維持向上する行政サービスを実現。
- 情報インフラを使う地域経済 (店舗型から宅配型へ移行することへの支援対応)
- 医療・福祉は遠隔健康モニターと管理システムの導入
- 遠隔文化鑑賞の検討
- 遠隔教育子育て・教育の試行

【戦術】デジタル社会への積極取り組み

- 市民のデジタルリテラシー教育 (既にあるシステムの活用: スマフォ教育、e-tax 教育、コンビニでの住民票との取得教育、キャッシュレス化教育、在宅健康モニタシステム、遠隔会議用のソフトの使用法の教育、その他)、資料1のような市民協働による
- 市役所における新たなデジタルシステムの検討の研究、箱ものから情報インフラへ
- 市役所のデジタル化にともなう市民のデジタルリテラシー教育

(3) 長期対応 (後期基本計画) ③感染症の終息状態での対応

【戦略】遠隔化+近接化ハイブリッド対応

- 遠隔化では対応しきれない方策あるいは遠隔化の高度化 (臨場感ある遠隔)
- 無理と無駄を省くデジタルインフラの仕様による行政における整理の対策

- 既存のデジタル行政サービスシステムの仕様の比較検討と一部導入
- 情報インフラを使う地域経済（店舗型から宅配型の高度化研究および近接サービスによる補完）
- 行政に集中させない緊急対応分散システムの構築と導入および在宅健康管理と医療の研究（既存システムの比較検討）
- 芸術・文化の鑑賞の新たな方法（従来の美術館、図書館も含め芸術・文化のデジタル発信基地化）
- 遠隔システム用の高画像・高音質モニター（個人）
- 遠隔子育てと教育に問題点を克服するシステムの構築

【戦術】 デジタル社会への高度な組み

- New normal における人間と人間の接触のあり方の勉強会
- デジタル行政サービスシステムの小金井仕様の確定と導入
- 情報インフラを用いる地域経済の実施
- 救急、防災、防犯の分散型緊急時対応システムおよび遠隔医療システムの導入
- 芸術・文化の鑑賞の新たな方法（従来の美術館、図書館も含め芸術・文化のデジタル発信基地化）の実施
- 落ちこぼれない遠隔子育てと教育に問題点を克服する制度の実施（補完か）

現時点における今後のスケジュールについて

令和2年10月6日現在

	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月						
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
■第13回長期計画審議会 (10/16) ・改定のレベル感 ・修正候補の洗い出し		●																													
□修正文案作成		←	→																												
■委員事前確認							←	→																							
■第14回長期計画審議会 ・修正文案確認									●																						
□修正文案作成							←	→																							
■委員事前確認										←	→																				
■第15回長期計画審議会 ・修正文案確認 ・パブリックコメントについて ・周知イベントについて												●																			
■パブリックコメント													←	→																	
■第16回長期計画審議会 (周知イベント)													←	→																	
□パブリックコメント集約															←	→															
■第17回長期計画審議会 ・パブコメ結果について ・文案の修正について ・答申案について																					●										
■答申																					●										